

平成22年度
広島県中心市街地商業活性化推進事業
ーコンセンサス形成事業ー 報告書

袋町「裏通り」活性化ビジョン

袋町「裏通り」活性化委員会
広島商工会議所

あいさつ

このコンセンサス形成事業は、平成 20 年 7 月の袋町「裏通り」活性化委員会の設立とともにスタートし、昨年度までの 2 年間は、街区の活性化に向けて関係者の合意形成を図って行くことを目指して、歩行環境の改善や地域連携に関する勉強会、近隣商店街との連携による“まちなかホコテン”等のイベントを開催してきました。

そして、今年度はそれらの活動を通じて培ってきたコンセンサス形成をもとに、この地区の「裏通り活性化ビジョン」の作成に取り組みました。

袋町「裏通り」地区は、世界的にも知名度が高い広島を中心市街地に位置しており、立派なアーケードと路面舗装で華やかな歩行者天国が 2km も続いている本通商店街に隣接しています。そして、この地区は海外からの観光客が集まっている平和記念公園から歩いて約 10 分の距離にあります。

また、昨今では本通商店街や大型商業施設にはない、個性的で独創性のある小さな店舗が増えてきており、買い物客がわざわざその店を探しに行くというような話題の街に少しずつ変化してきています。

しかし、今のところまだ、「裏通り」全体としての取組みができておらず、歩行者がゆっくり歩ける環境もつくられていないため、通行量は本通商店街の 1/10 以下しかありません。

このため、今年度のコンセンサス形成事業では、この地区の立地特性を活かしながら、多くの人が滞在する環境づくりや集客拠点の在り方等について検討し、具体的なイメージを描きながら、この地区の「裏通り活性化ビジョン」を作成してきました。

また、そのビジョンを通じて検討してきた各種事業を実現していくため、組合組織のあり方や、収益事業の可能性についても検討してきました。

そして、その 1 年間の成果を 3 月 4 日にまちづくり市民交流プラザで発表し、周辺の商店街組合や各種関係者の多くの方々からご賛同をいただくことができましたので、来年度は袋町「裏通り」活性化委員会を「うらぶくる商店街組合」に昇格させ、このビジョンをもとにした各種事業の検討を具体的に進めて行きたいと考えています。

今年度で 3 年間のコンセンサス形成事業は終わり、来年度からはいよいよ「うらぶくる商店街組合」として自立した活動を行なっていくことになりますが、この 3 年間の成果をもとに、更なる活動を積み重ねて行きたいと思っておりますので、これからもご支援の程よろしくお願いします。

2011 年 3 月
袋町「裏通り」活性化委員会 一同

目次

1. 中心市街地の課題と展望	1～4
1-1. かつての広島を中心市街地	
1-2. かつての袋町「裏通り」	
1-3. 袋町「裏通り」の現状	
1-4. 中心市街地をとりまく2つの社会現象	
1-5. 成熟社会に向けた都市の展望	
2. 都市の表と裏の魅力をつくる	5～7
2-1. 他都市の表と裏	
2-2. 広島都市の表と裏	
2-3. 広島裏通り再生と交通共生	
3. 袋町の裏通り境界の位置づけ	8～10
3-1. 袋町裏通り境界の計画的な位置づけ	
3-2. 袋町裏通り境界のデザインの考え方	
4. 袋町の裏通り境界の計画	11～18
4-1. 裏通り境界の環境生成イメージ	
4-2. 居心地が良い散策型の裏まちをつくる	
4-3. 並木小路の在り方とイメージ	
4-4. 並木小路の構成	
4-5. 小路広場の計画〈袋町公園の有効活用〉	
4-6. 通り庭の計画（既存建物）	
5. 地域文化を発信する集客拠点の計画	19～24
5-1. 大黒座による拠点づくり	
5-2. 裏大黒天による拠点づくり	
5-3. 大黒座の施設プラン	
5-4. 五穀豊穡の大黒祭り	
5-5. 大黒座のデザインの考え方	
5-6. 小路広場の小路庵	
6. 袋町裏通り境界の事業展開	25～27
6-1. 自立循環型の組織と運営の仕組み	
6-2. 組合の設立とサービス事業	
6-3. 社会営利事業のケーススタディ	
7. 今年度の活動と今後の展開	28～34
7-1. 今年度の活動記録	
7-2. まちなかホコテンイベント	
7-3. 袋町「裏通り」活性化ビジョンのパネル	
7-4. 今後の展開	
○袋町「裏通り」活性化委員会 名簿	

1. 中心市街地の課題と展望

1-1. かつての広島を中心市街地

●かつての新天地劇場街

大正 10 年（1921 年）、八丁堀の南の一面に街の再開発によって、盛り場、劇場、活動写真館、カフェ等の多くの店が集まる新天地劇場街ができました。

写真の大きな建物は新天座（劇場）で、その街の中心になっていたものです。

当時、本通り商店街と一体になっていたこの地区は、多くの人々で賑わう広島を中心市街地となっていました。

地域の人々の営みを活性化させながら、外国からの新しい文明や文化を取り入れたと思われる当時の中心市街地は、広島の地域性を感じる魅力的な賑わいの場になっていたと思われます。



1-2. かつての袋町「裏通り」

●改善寺／大黒天／旅館街

「袋町」は、江戸中期（明暦 1657 年）頃に、西魚屋町界隈が大火となり、消失した戒善寺が現在の小町に移転した跡に生まれた街であると言われています。

このため、その町名の由来は、改善寺（大黒山護念院戒善寺）に大黒天が祀られていたことに因んで、知恵や宝が一杯入った大きな袋を肩にかけた大黒天の姿から「袋町」と名づけたと言われています。

本通商店街の南に沿っている 1 本目の通りは、戦後の都市復興計画で出来ました。

終戦前は、東ブロックは鉄砲屋町、西ブロックは袋町でしたが、戦後になって町名や住居表示が改変されたことにより「袋町」に統合されました。

明治時代、鉄砲屋町（現在の袋町「裏通り」）は旅館街でした。

日清・日露の戦争以降、全国から集められた兵隊を宇品港から運搬船で、大陸の戦地に送り出していたころは、その兵隊達や見送りの家族が、別離の宿として鉄砲屋町の旅館街に泊っていました。



1-3. 袋町「裏通り」の現状

●個性を発信する街

袋町の「裏通り」は、本通商店街の南隣りにある通りですが、通行量は本通の 10 分の 1 以下となっています。

しかし、比較的、本通商店街より賃料の低いこの街区は、若年層をターゲットにしたチャレンジャブルな店舗や飲食店が出展しやすくなっているため、本通商店街や大型商業施設にはない、個性や独創性のある小さな店舗（買う・食べる・遊ぶ・みがく・住む等）が点在しています。

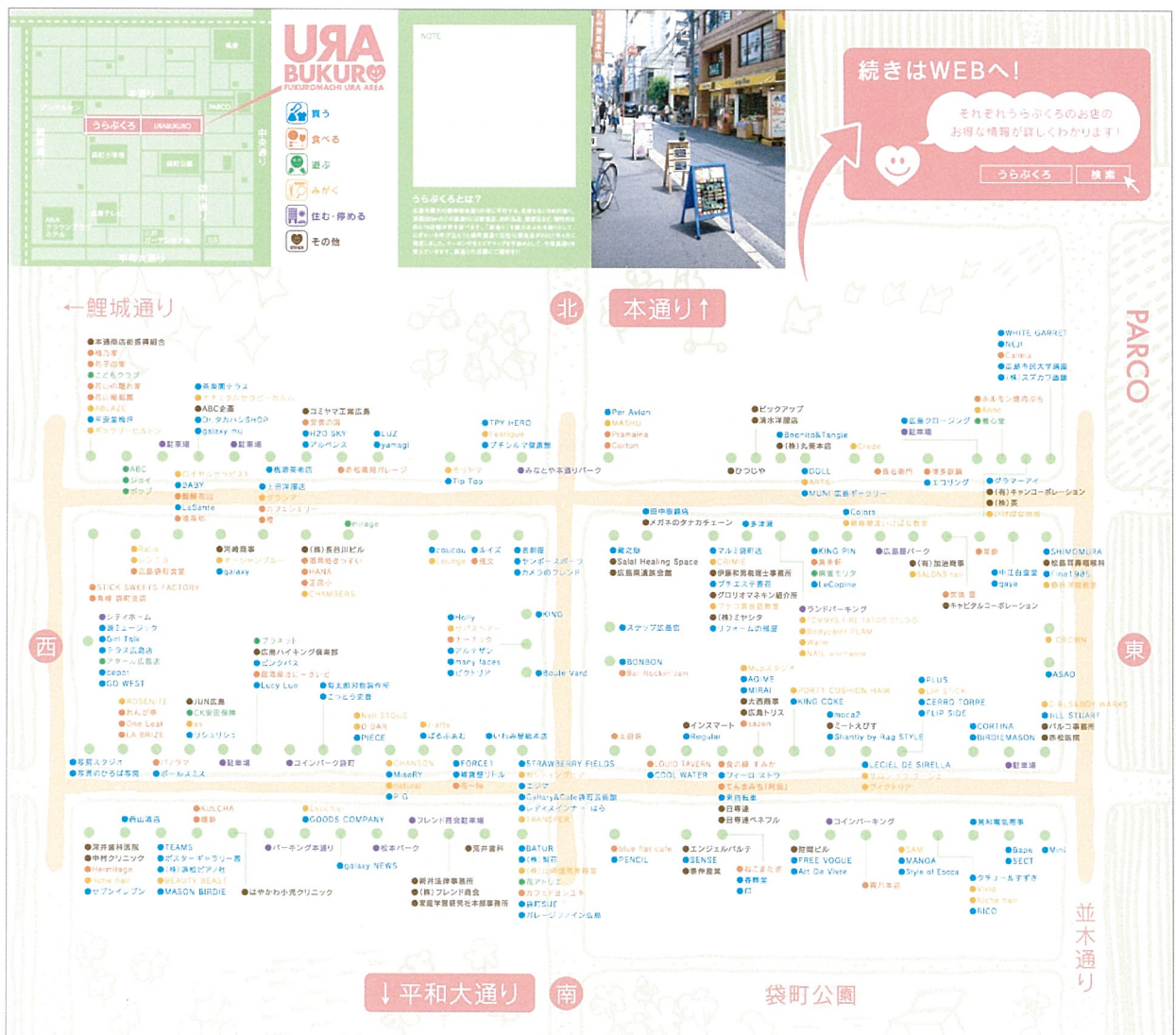


本通商店街



袋町の「裏通り」(裏袋)

袋町の「裏通り」のマップ



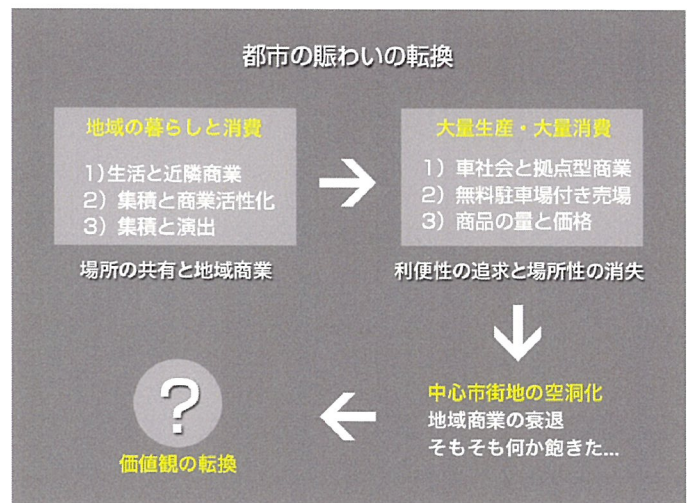
1-4. 中心市街地をとりまく 2 つの社会現象

●車型社会による都心の空洞化

袋町の「裏通り」や本通商店街等の中心市街地をとりまいていてる社会現象の 1 つに、右図のような都市の賑わいの転換があります。

かつて、中心市街地の商店街は地域の営みとともに栄えていましたが、大量生産・大量消費型の社会とともに到来した車型社会によってその在り方は大きく変化しました。

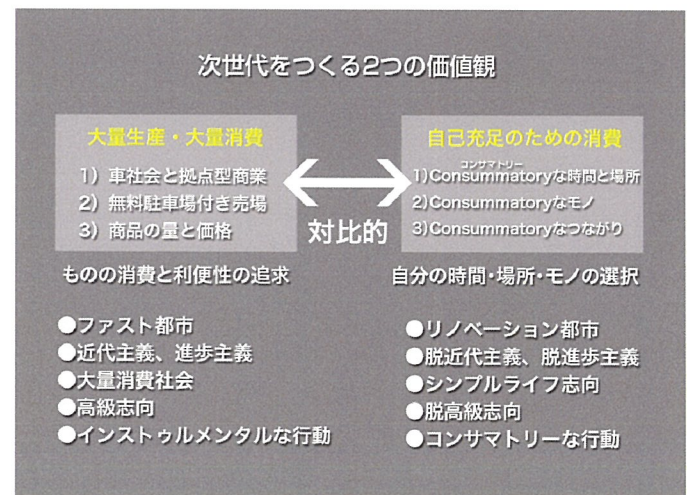
中心市街地の周辺に出来た無料駐車場付きの大型商業施設では、多くの商品が安く売られているため、消費者はその利便性に引かれて車で大型店に移動するようになり、中心市街地はその影響を受けて人通りが減少しました。



●自己従属的な消費への転換

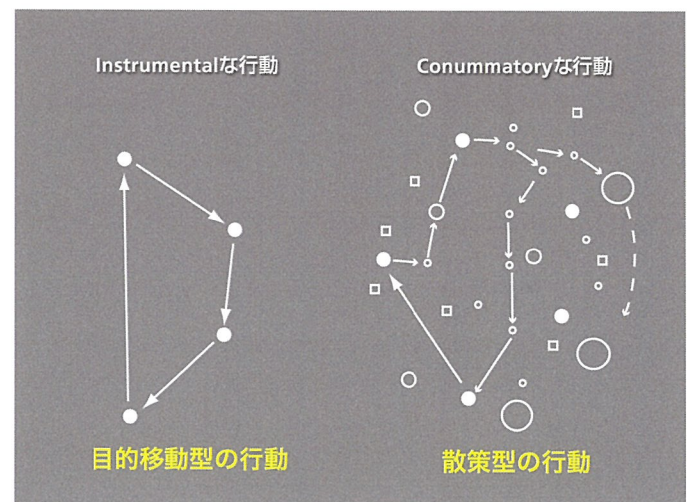
しかし、それに対して昨今では、シンプル族という言葉で表現されるような、新しい消費価値を持つ人たちが増えてきています。

このような人々の価値感、大量生産・大量消費型の社会から与えられるものを買うのではなく、自分の時間や場所、モノを得て自己従属的（コンサマトリー）な生活を楽しむことにあります。このため、この人々の消費行動を促すためには、多様で個性的な場所やモノを選択することができる街が必要になります。



例えば、車による利便性を求める人の消費行動は基本的に目的移動型ですが、自己従属的な生活を求める人の行動は自分なりの時間や場所を探して楽しむ散策型になります。

このため、後者の価値感を持つ人々を集客していくためには、独創性の高いモノやサービスを発信し続ける小規模な店舗の集積とゆっくりとした時間の変化を楽しむことができる、自然と融合した都市環境が必要になると思われます。



1-5. 成熟社会に向けた都市の展望

●都市の表：利便性＋社会従属的な魅力

都市には、利便性の高い交通を利用してオフィスや商業拠点を移動する表通りと、地域の生活や文化が宿っている界隈を歩いて楽しむ裏通りがあります。

広島市の場合の表通りは相生通りや鯉城通り、平和大通りなどで、そこには、大きな資本によるビルが立ち並び、多くの人々が行き交う経済活動のステージがあります。

今後、これらの表通りを更に魅力的な場に更新していくためには、その利便性を活かしながら、それらの経済活動等のステージを更に向上させていく必要があると思われます。

しかし、その更新を実現していくためには、大きな資本が必要になるため、高度経済成長を終えた都市においてそれを行なうことは容易ではありません。

このため、広島などの地方都市では、今後は下記のような裏通り界隈の魅力と表通りが一体になって都市全体の魅力を引き上げ、インバウンド観光等につながる産業を高めながら、都市を再生していくことが重要になると思います。

都市の表：目的移動型／経済活動／大型施設



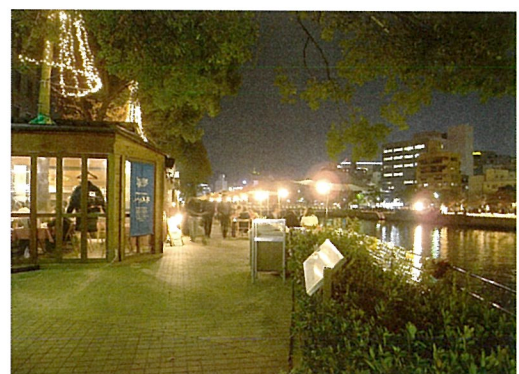
●都市の裏：利便性＋自己従属的な魅力

上記のような表通りと一体になって広島を活性化していく裏通りには、広島市の中心に位置している袋町のような裏通り界隈と、中心市街地を南北に流れている元安川や京橋川の川辺の通りがあります。

現在、後者は水の都ひろしまのプロジェクト（社会実験）を通じて、少しずつその魅力を再生していますが、前者の袋町等の裏通りでは、まだ、具体的な取組みは行なわれていません。

このため、今後は、この袋町の裏通り界隈を、表通りの利便性を活かしながら、観光客等の自己従属的なニーズに応える個性的な街に更新して行く必要があると思います。

都市の裏：散策型／地域特性／小規模点在型



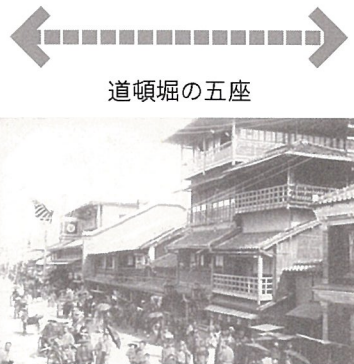
2. 都市の表と裏の魅力をつくる

2-1. 他都市の表と裏

●地域性とともにつくられる都市の表と裏

インバウンド観光等で大きな収益を得ている京都、大阪の街には、ビジネス等の表通りに隣接して、それぞれの歴史によって培われた魅力的な裏通りがあり、その裏通りが多くの人を引きつける集客拠点になっていることが分かります。

■大阪の表と裏

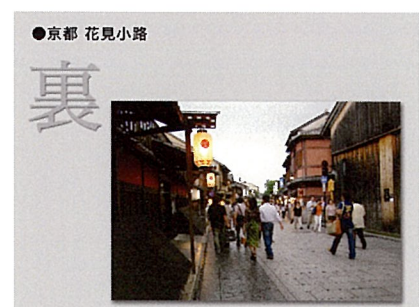


大阪には表通りとしての御堂筋があり、そこに隣接する道頓堀等の裏の通りがあります。道頓堀は1612年、安井道頓・安井道ト、安藤藤次らが私財を投じて運河開削を行い、その道頓の功績を松平忠明が評価したことから道頓堀と名づけられました。

道頓堀は、1660年代から中座、角座、竹本座、浪花座、弁天座、朝日座などの五座の劇場ができたことにより、多くの人で賑わうようになりました。そして、その賑わいによって多くの飲食サービスが生まれたことにより、今の“くだおれの街”は出来たと言われています。



■京都の表と裏



京都には表通りとしての四条通りがあり、そこに隣接して花見小路や先斗町などの裏通りがあります。この裏通りは、花街と呼ばれている区域で、京都の歴史の中で芸妓遊びのできる店とともにつくられてきました。

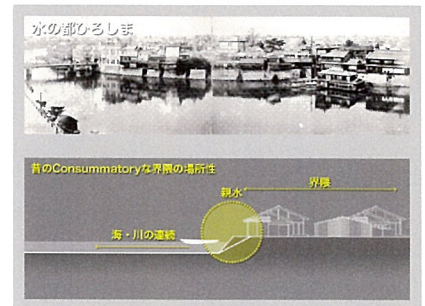
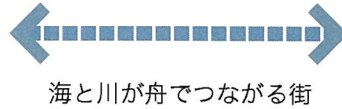
現在でも、その花街の営みは続いており、その営みによる地域の経済循環が地域文化をつくり、多くの観光客の心を引きつけています。



2-2. 広島市の都市の表と裏

●地域性とともにつくられる都市の表と裏

■広島市の地域特性



雁木による親水護岸



新天地劇場街

かつての広島市の川には、川辺の町並みがあり、そこには各街の通りにつながる雁木がありました。このため、人々はそこから潮の満ち引きを読んで舟に乗り街を移動していました。

そして、宮島の管絃祭の時にはその舟は川を下り、厳島神社に集まったと言われていました。

また、その川につながる多くの水路があった街の中心には、本通商店街や新天地劇場街などがあり、もう1つの広島市の街の賑わいをつくり出していました。

もし、このような街が今も広島に残っていたら、広島は世界で指折りの観光都市になっていたと思われます。

■広島市の表と裏



川辺の街並み

上記のような広島市の地域特性から考えると、今後、広島を観光客等のニーズにあった自己従属的な時間を楽しむことができる街に更新していくためには、京橋川、元安川の川辺の街と、袋町の「裏通り」界隈の2つのエリアを更新して行くことが重要になると考えられます。



袋町「裏通り」

2-3. 広島市の裏通り再生と交通共生

●都心 500m スクエアの計画

かつて、広島都市圏ランドデザイン研究会が作成した「広島市の都心改革と交通共生」の報告書の中に、右図のような都市コア 500m スクエアの計画があります。

この計画は、都心のコアを歩行者優先の街に更新することで、この界隈を人々が集う賑わいのエリアに再生して行くことを目指しています。

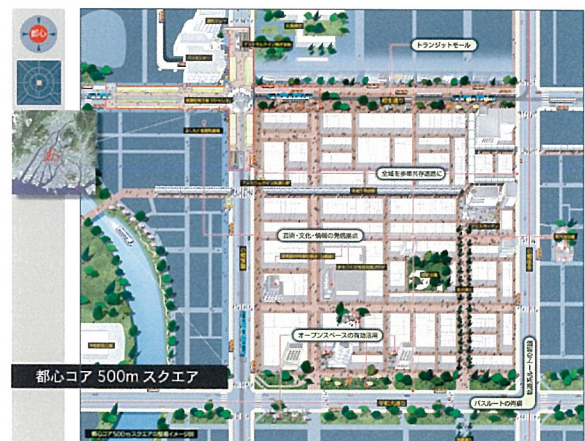
現在の広島市の都心に人々が集い憩う裏通りをつくっていくためには、その基盤となる歩行者優先の街区の在り方について検討し、その在り方を地域で共有していく必要があります。

人々がゆっくりと滞在する裏通りをつくる



次世代の交通共生
一方通行／時間規制等による歩行者優先道路

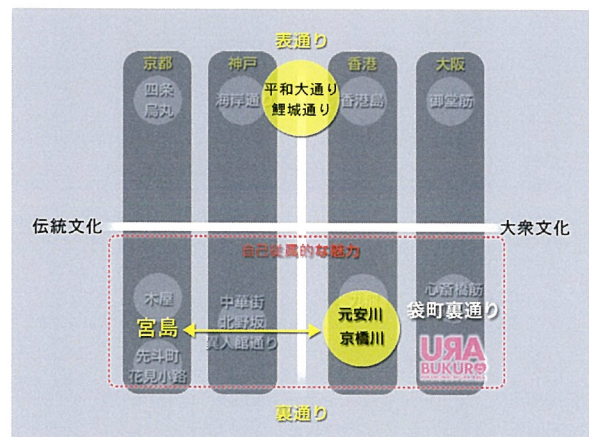
●500mスクエアの現況



■成熟社会に向けた広島の再生

以上のように、これから成熟社会に向けて広島が活性化していくためには、都市の表と裏が相乗効果を持って成り立つ関係を再構築し、袋町の裏通りや元安川、京橋川の川辺の通りを、自己従属的な価値観をもって訪れる観光客等のニーズに応える街に再生して行く必要があると思います。

また、それは、宮島につながる広島の伝統文化と裏通りの大衆文化の両方を楽しむことができる都心の魅力を再生することにもなるため、日常的に多くの人が集まり滞在する都心をつくることにつながると考えられます。

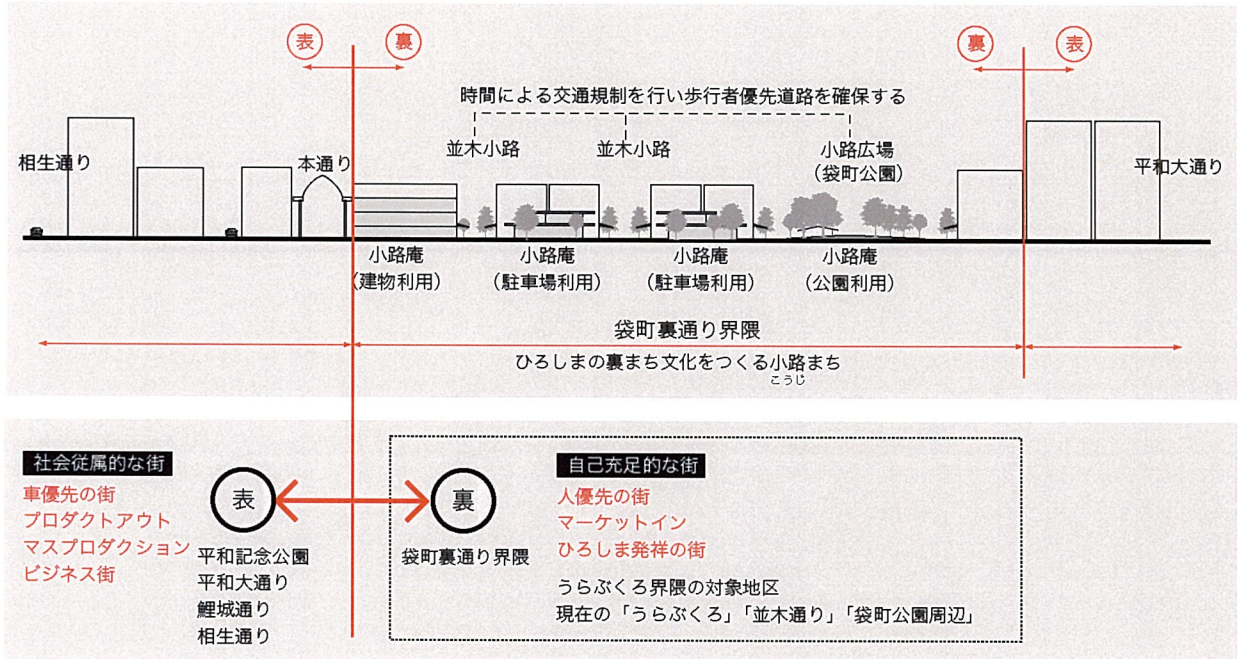


3. 袋町の裏通り界隈の位置づけ

3-1. 袋町の裏通り境界の計画的位置づけ

現在の袋町裏通り境界は、鯉城通りや相生通りなどの表通りから1つ裏側に入った街となっているため、交通共生等の在り方を考えることで、人々がゆっくりと歩き滞在する街をつくることができます。

このためこの計画では、この境界がかつての新天地劇場街のころから持っていたDNAを現代に読み起こしながら、この境界に“ひろしまの裏まち文化をつくる小路まち”^{こうじ}をつくり、現在のひろしまに、地域性を感じる新たな賑わいをつくり出して行くことを考えています。



車の交通規制とともにつくられる「並木小路」には、マスプロダクションによるお店ではなく、マーケットインによる商品を販売するお店が立ち並ぶことを想定しています。

■裏通り境界をつくる2つの基本的考え方

この計画では、上記のような裏通り境界をつくるために2つの基本的考え方を設定しています。

1つは、居心地が良い散策型の「街庭」をつくることを目指して「並木小路」「小路広場」「通り庭」をつくるという計画で、もう1つは、この境界を広島の地域文化発祥の地にしていくために、「大黒座」や「小路庵」などの地域文化を発信する集客拠点をつくるという計画です。

※詳しくは 4. 裏通り境界の計画を参照。

1. 裏通り境界の環境づくり

居心地が良い散策型の裏通り

自然の木々と一体になった「街庭」をつくることを目指して、「並木小路」「小路広場」「通り庭」などの心地よい居場所をつくる

2. 裏通りの集客拠点づくり

ひろしまの地域文化発祥の地

袋町の大黒天の歴史を活かした「大黒座」や「小路庵」などの集客拠点をつくる。

その拠点は本店、実験店などが入居するひろしまのイノベーションの拠点とする

袋町裏通りの境界づくり^{こうじ}
ーひろしまの地域文化をつくる小路まちー

次世代の市場のニーズ

社会従属的なマスプロダクションの消費ではなく、自己充足的なニーズを満たす消費

コンサマトリーな時間・空間・モノを楽しむ生活

※Consummatory: 自己充足的
コンサマトリー

※観光: 自己従属的ニーズによる行動

3-2. 袋町の裏通り界限のデザインの考え方

●“くずし”“透かし”“織り重ねる”デザイン

人々が自分たちの時間、空間、モノを探して楽しむことができる裏通りには、表通りをつくっているような均質なデザインではなく、様々な魅力が織り重なる、多様で個性的なデザインが相応しいと思われます。

このため、この計画では、近代的な現在の建物や都市環境をそれぞれの場所性を捉えながら“くずし”“透かし”そこに個性的な価値を“織り重ねる”という3つのデザインを行なうことによって、親しみ易く個性的な裏まちをつくり出していくことを考えています。



1) 多様性をつくる“くずし”のデザイン



- 道路、歩道、公園というそれぞれの規格による境界を“くずし”、「並木小路」「小路広場」「通り庭」などの多様な空間をつくる。
- 規格品の素材ではなく、一つ一つが表情が違う素材を用いて空間をつくる。
- 「並木小路」「小路広場」「通り庭」とともに建物の内と外の境界を“くずし”、そこに小路庵（草庵）等つくことで個性的で親しみやすい街をつくる。 等々

※詳しくは 4. 袋町の裏通り界限の計画参照

2) 人を誘う“透かし”のデザイン



透き見



透き織り



透き色



- 建物の中や隣の部屋などの様子が窺えるような“透かし”の空間をつくることで、人々の心を様々な場所へと誘う奥行き感のある町をつくる。
- 落ち着いたある面的な灯りの中に点光源を用いて“透かし”の空間をつくり、人々を誘う透き見、透き色の町をつくる。等々

※詳しくは 4. 袋町の裏通り界限の計画参照

3) 個性を“織り重ねる”デザイン



和洋を織り重ねる。空間・灯りを織り重ねる。細部を織り重ねる。雑多を織り重ねる。

- かつての広島がそうであったように、和洋の空間をうまく“織り重ねる”ことで、個性的な広島の間をつくり出す。
- 屋根や庇、路の灯りと店の灯りなどをうまく“織り重ねる”ことによって、人々を心地よく誘う個性的な空間をつくり出す。
- 細部のあるデザインを“織り重ねる”ことによって、雑多なものを一つの関係に“織り重ね”、楽しさと賑わいを感じる町をつくり出す。等々

※詳しくは 4. 袋町の裏通り界限の計画参照

4. 袋町の裏通り界限の計画

4-1. 裏通りの環境生成イメージ

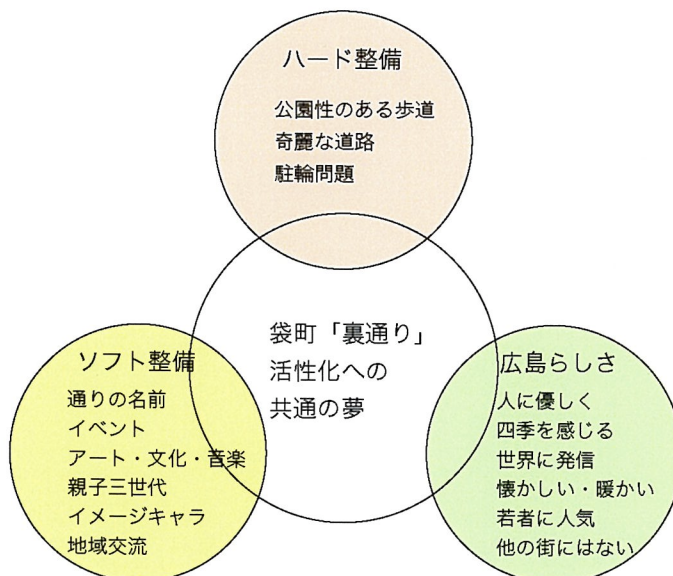
「街庭をつくる」

—居心地が良い散策型のまちをつくる—

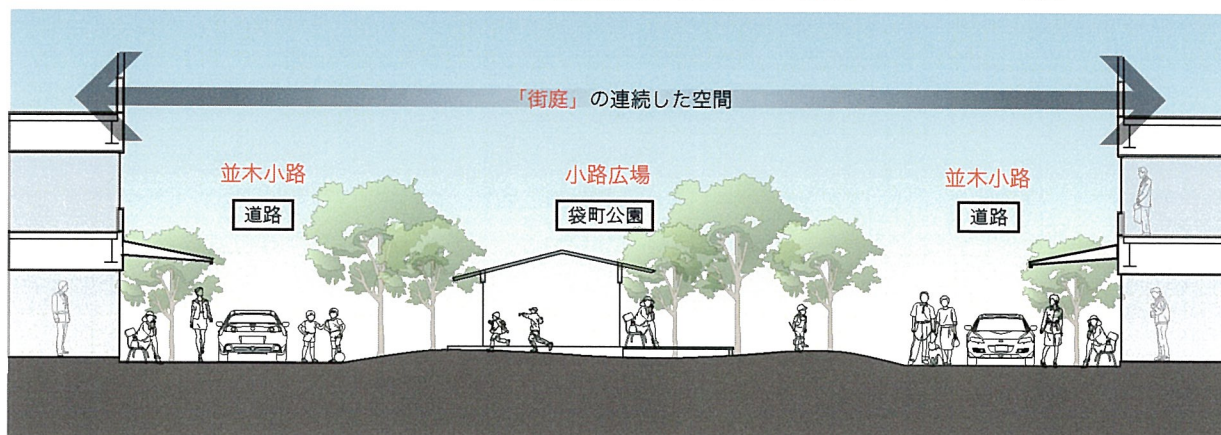
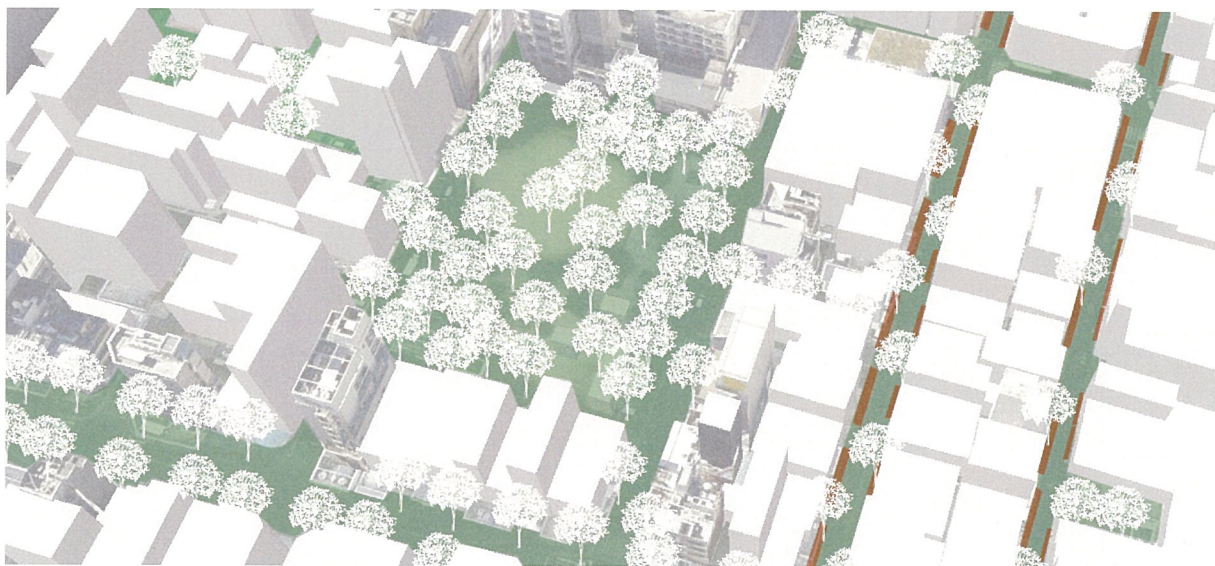
袋町「裏通り」活性化委員会では、これまで、右図のようなまちづくりの夢を描いてきました。そして、ハード整備（環境づくり）における共通の夢として「公園性のある歩道」を考えてきました。

このため、この計画では、まず、その基盤となる環境づくりのイメージを共有するため「街庭をつくる」というキーワードを掲げ、下図のような街づくりのイメージと整備方針を想定しました。

公園の中にビルが建つという下図の「街庭」のイメージは少し極端なものです。この計画では、そのイメージを実現するため、車の交通を規制して「並木小路」や「小路広場」をつくることを考えています。



「街庭」のイメージ

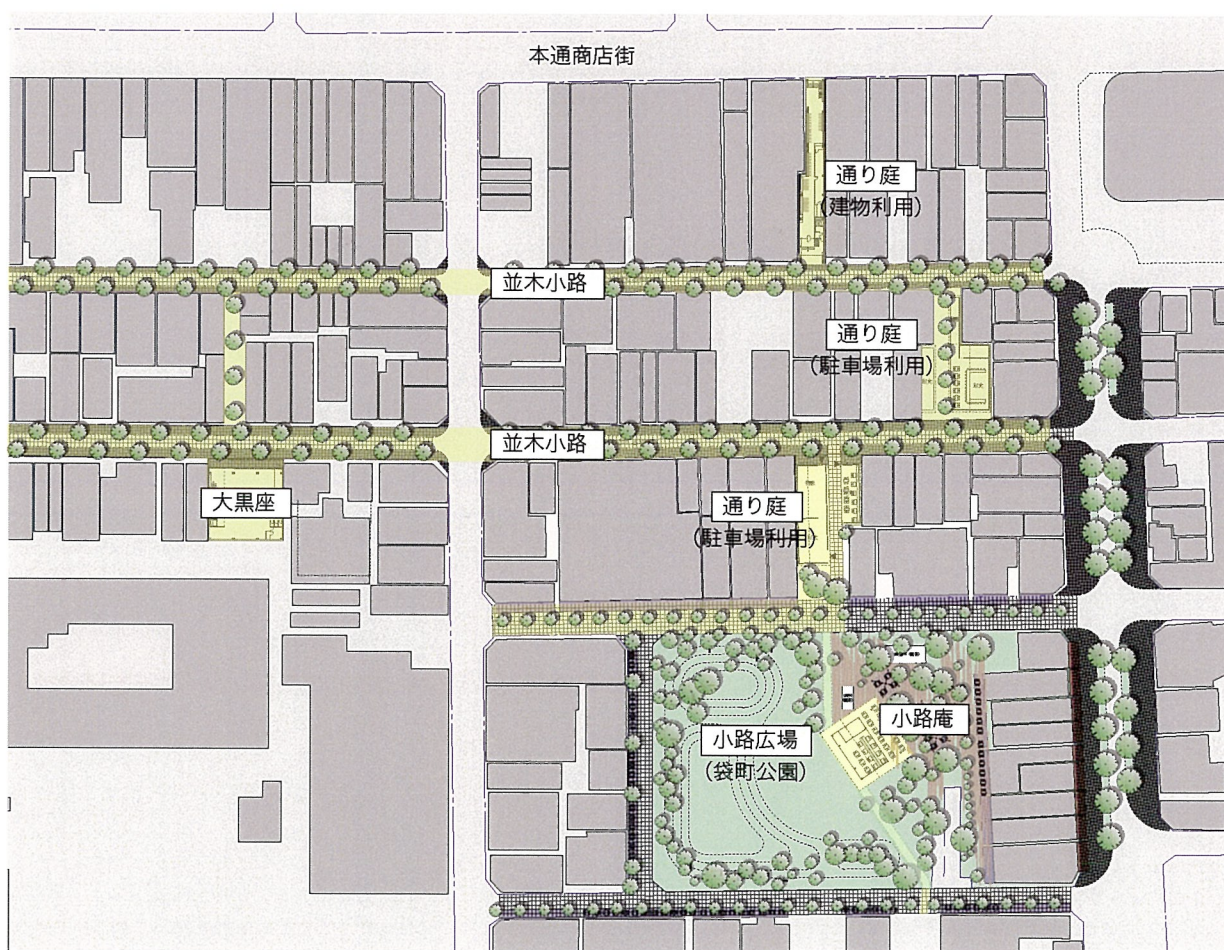


4-2. 居心地が良い散策型の裏まちをつくる

この計画では、表通り（鯉城通り、相生通り等）からこの界限に入ると、人々がゆっくりと歩くことができる居心地が良い散策型の通りがあり、そこには、ひろしまの地域文化を楽しむことができるお店が建ち並んでいるような街を想定しています。

このため、その街づくりを目指して袋町裏通り界限の公共空間を、下図のような「並木小路」と「小路広場」にしていこうと考えています。

- 小路づくりは、東西の「並木小路」（公共空間）と、南北の「通り庭」（民地空間）の2段階でつくることを考えています。
- 南北の「通り庭」は本通りの通行客を直接うらぶくる界限に引き込むきっかけをつくります。
- 袋町公園はこの裏まちのヘソとなる「小路広場」として位置づけ、人々がゆっくりと滞在し、裏通りの生活文化を楽しむことができる拠点とします。
- この界限を観光客等の多くの人々が来訪するエリアにするため、「並木小路」には個性的な店舗とともに「大黒座」「小路庵」等の地域文化の発信拠点を設けます。



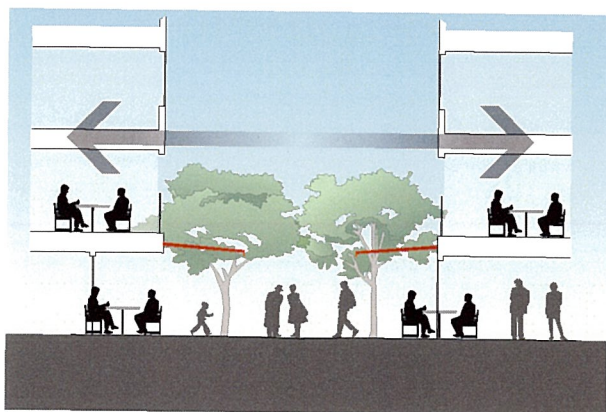
：小路の連続

※幅員が狭い6m道路については、民地を活用して樹木を植えるなどの検討が必要になると考えています。

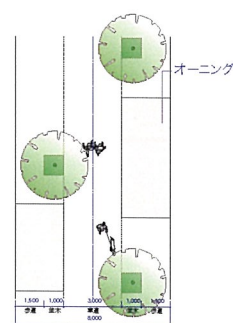


4-3. 並木小路の在り方とイメージ

この計画では、袋町の裏通り界限を東西に貫く 2 本の街路を散策型の居心地の良い裏通りにするため、沿道建築物のファサードと店舗前空間の道の使い方等を考えた下図のような「並木小路」をつくることを考えています。通常、一方通行の道路となっているこの「並木小路」は、夜間やイベント時に車両の通行を規制をすることによって、歩道までを店舗とする小路市（裏大黒祭りや夜市等）を開催することができます。

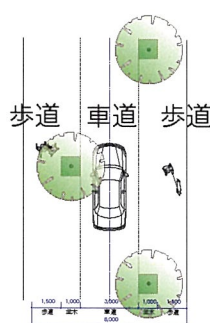


並木小路の断面図

小路市の開催時
車両通行規制

通常利用

車両一方通行



歩行者天国の仮設店舗を歩道までとすることで、イベント時も緊急車両の進入を可能にすることを考えています。

歩行者天国の並木小路のイメージ



4-4. 並木小路の構成

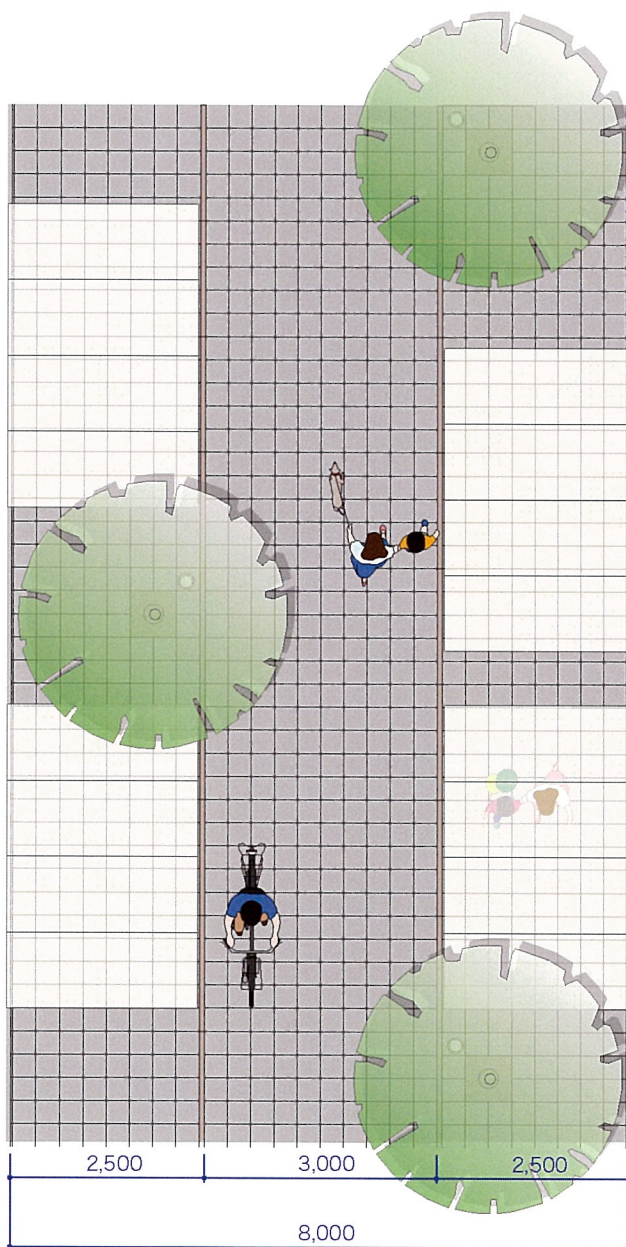
■並木小路の素材等

袋町の裏通り界限は、“くずし”“透かし”“織り重ねる”をデザインキーワードとし、個性が織り重なるまちをつくることを考えているため、「並木小路」は、それらの個性をつなぐ「地」の空間にすることを考えています。

このため、車道と歩道、歩道と民地の境界を感じさせない街路をつくることを目指して、歩道と車道の段差は可能な限り小さくし、素材は自然素材を用い、色調はベーシックなものにすることを考えています。

また、透かした素材を織り重ねることで柔らかな光（透き見、透き色等）をつくることを考えているため、仮設店舗のシェードには膜素材を用い、樹木は柔らかな葉が色づくものを考えています。

並木小路の構成パターン-1



Plan
scale 1/100



↑歩道部シェード



↑街路樹：シナサワグルミ（高木、落葉樹）

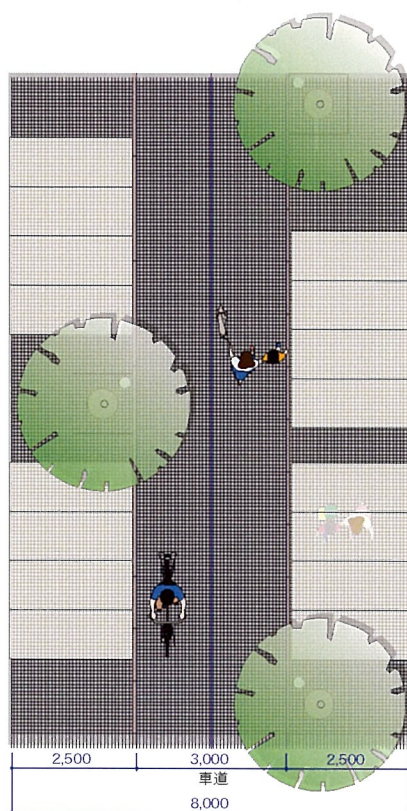


↑歩道部舗装：コンクリートブロック

4-4. 並木小路の構成

並木小路の構成パターン -2

このパターンは、工事費等の調整を考慮して、構成パターン -1 のデザインの考え方をもとに、別な素材によるパターンを検討しています。



Plan
scale 1/100



↑ 歩道部シェード



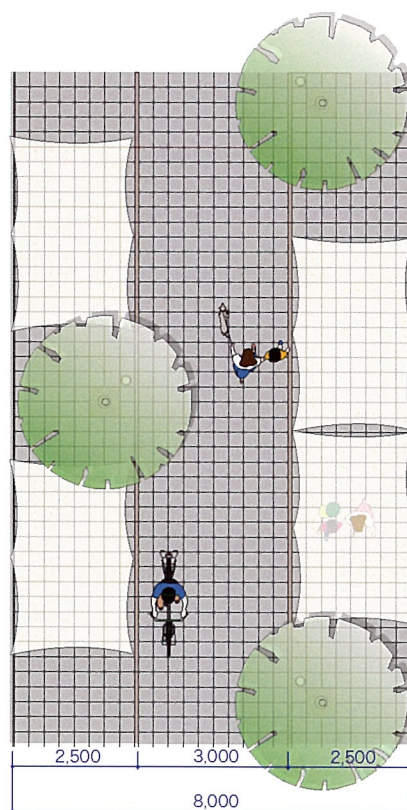
↑ 街路樹：アキニレ（高木、落葉樹）



↑ 歩道部・車道部舗装：ピンコロ石
縁石：御影石

並木小路の構成パターン -3

このパターンは、工事費等の調整を考慮して、構成パターン -1 のデザインの考え方をもとに、別な素材によるパターンを検討しています。



Plan
scale 1/100



↑ 歩道部シェード



↑ 街路樹：アキニレ（高木、落葉樹）



↑ 車道部舗装：脱色アスファルト舗装